



「ぼくは四年生」

岡田仁一くん

ぼくは、四年生になって、サッカーのゴールキーパーが出来るようになりました。走るのも算数の計算もはやくまりました。四年生の教室は二階です。生

き物がかつています。二階はけしきがよく、美の山が近くに見えます。教えてくれる先生が、とても子どもたちを見てくれるんだなと思いました。社会と音楽は先生がちがいます。いろいろなことをよくわかるように教えてくれるので、授業がとてもおもしろいです。

係決めはとても楽しかったです。ぼくは、遊び計画係になりました。みんなと楽しく遊べるように遊びを決める係です。今日はドッジボールです。学校がとてもおもしろいです。

でも、ぼくは、好ききらいがあつて、給食では野さいが食べられなくてこまっています。フルーツも食べられません。野さいは、体に良いと家の人がいつも言ってくれます。ぼくも野さいやフルーツが食べたいと思うけれど食べられません。ぼくは、四年生になって野さいのにんじんや玉ねぎが食べられるようになりました。ほんとうにうれしかったです。

ぼくの四年生のめあては、国語の時間にいっぱい手をあげて発表すること、ルールを守ることがんばりたいです。

(評) 四年生になった仁一君の喜びが、読む人に伝わってきます。いろいろなことができるようになった仁一君、これからの活躍も楽しみます。



(評) 全体のバランスを考えて、のびのびと書くことができました。

豊田 尚さん



(評) 「へん」「つくり」に気をつけてバランスよく書けました。文字からやさしさが伝わってきます。

新井友理さん

「ぼくのかお」

福田将馬くん



(評) 紙いっぱいのにびのびと描けました。大きな鼻が似ています。

金室美由紀さん

こもれびに 赤くかがやく つつじかな

